

# 蔵出しお宝ニュース

— 第 37 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で永らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

## たんご せつく 「端午の節句展」 はじまる



企画展の様子

平成 26 年 5 月 1 日 (木) から 5 月 18 日 (日) まで、資料館 1 階にて「端午の節句展」を開催いたしております。三原人形や甲冑かっちゅうなどの節句飾りを中心に、このたびは刀の拵こしらえ (外装) にもスポットをあてて展示しています。

刀鍛冶の手によって刀が完成しますと、鞘師・鞘師の作った拵の下地鞘に、漆うるしなどで装飾する塗師・柄に鮫皮や組み紐を巻く柄巻師・刀身が鞘から抜けないように固定する釧はばきを主に作る白金師・鐺しりがねしなどの金具類を作る彫金師などの職人に回され、拵が作られます。拵は作者と所有者の個性が存分に発揮されます。三原市幸崎出身の清水南山しみずなんざんは、彫金師として大正 7 (1918) 年、大正天皇即位記念に司法省が献上した「金装飾太刀」の金具を製作しました。拵には、勇壮な太刀拵や実用的な打刀拵、短刀拵、江戸時代の武士たちが登城の際に用いる大小拵、普段差のおしゃれな拵、隠居が用いる侘びた拵、帯刀を許された豪商が差した豪華な拵などがあり、種類はさまざまです。

本展示を通して、薫風と日本の美の一端に触れていただければ幸いです。



くろいろ いろがまのほちらしぬりたんとう  
黒蠟色蒲穂散塗短刀 (個人蔵)  
くろいろ いろぬりたんとうこしらえ  
黒蠟色塗短刀 拵 (個人蔵)

資料館マメ知識 「前立」<sup>まえだて</sup>とは？



兜に取り付けられた前立

兜<sup>かぶと</sup>には使用者の存在を誇示し、合印の役割を持つ「立物<sup>たてもの</sup>」が付けられることが多くありました。兜の前面に取り付けるものを「前立<sup>まえだて</sup>」、両脇に付けるものを「脇立<sup>わきだて</sup>」、頂点に付けるものを「頭立<sup>ずだて</sup>」、後方に立てるものを「後立<sup>うしろだて</sup>」と呼びます。

デザインは千差万別で、鍬形・日輪・月・家紋・文字・動物などです。広島藩浅野家では、鳥の羽を束ねたものを前立として用いていました。

大きなものは一見重たそうに見えますが、軽い仕立てで、いざという時には折れて、首に衝撃がかからないように設計されています。

「端午の節句展」では、堅牢な兜に花を添える前立の複製のうち、打出の小槌・扇・家紋（鬼牡丹）・蜻蛉<sup>とんぼ</sup>・獅嚙<sup>しかみ</sup>の5点を紹介しています。

置き 春 秋



左から順番に、蜻蛉・打出の小槌・扇の前立

掛物 <sup>いまい</sup>今井 <sup>けいじゆ</sup>景樹 筆 桃太郎出陣図

花入 <sup>ほかい</sup>行器

行器とは、食べ物を盛って人に贈ったり、他所へ運んだりするための器です。

花 季のもの

発行 平成 26 (2014) 年 5 月 12 日

〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。